第４回 本町田地区小学校新たな学校づくり基本計画推進協議会　議事要旨

開催日時		2024年2月9日（金）　９：30～１０：４０
開催場所		本町田東小学校　家庭科室（ウェブ会議併用）
出席者 (敬称略)	委員	渡邉（康）委員、渡辺（和）委員、高柳委員、永山委員、熊澤委員、 渡辺（一）委員、安藤委員、手塚委員、野口委員、越水委員、中潟委員、 小原委員、平本委員、本城委員、◎若月委員、大波多委員、望月委員、 〇杉本委員、大谷委員 （◎：会長、〇：副会長）
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、 指導課、教育センター、子ども生活部児童青少年課 玉川大学教育学部
傍聴者		０名

議事内容（敬称略）

１　第３回推進協議会の振り返りについて

新たな学校推進課　（資料１　説明）

２　報告事項

（１）新たな学校の校歌・校章の制作について

新たな学校推進課　（資料２－１、２－２　説明）

山田准教授　　２０２３年１０月から１１月の意見を集める段階において、本町田地区の３つの小学校を訪問した。その際にはゼミに所属する学生とともに授業を行い、児童に絵を描いてもらった。その中で、我々も話をし、一緒に絵を描きながら、児童が校歌に求めるものを感じ取っていった。その中で、児童が、非常に多くの色を使いながら絵を描いているところを目にした。そうした様子から「色とりどり」という言葉を連想したり、絵の中から言葉を拾うなどして、多くの言葉を集めた。

資料２－３に沿って、まずは作詞の構想についてご説明させていただく。

現在の３つの小学校の校歌の歌詞を分析すると、「母校」や「我ら」といった言葉が最も多く使用されている。また、オリジナリティーが高く、児童のイメージにも近い言葉が含まれている。本町田小学校なら「未来の扉」や「希望のもり」。本町田東小学校では、校歌ではあまり用いられない『黒』を用いた「黒くうるおう」といった美しい言葉が多い。町田第三小学校では「霜雪」という言葉を用いて、霜雪に耐え梅が花咲くなど、格調高い印象を受ける。

それぞれの特徴的な言葉を基に各校のイメージカラーを検討した結果が１ページ目にも記載があるが、児童が様々な色を使っていたように、３校のイメージも色とりどりである。また、山河の名前や地名も大事にしたいと考えている。

こうしたものを踏まえ、境目のない広がりのある大地を見ている子どもの姿から１番を始められるといいと考えている。

次に、交流を行った各小学校の１年生児童が新しい学校に持つイメージの分析を実施した。個人の印象に引っ張られることを防ぐため、AIテキストマイニングという手法を用いて、なるべく公平にみることとした。同じく、他学年や地域の方等に実施した意見募集についても、同様の手法を用いている。

２ページ目の資料１が、１年生の絵や描いているときの様子から分析した、新しい学校に対するイメージである。描かれた絵から連想した言葉や、描いている最中に発した言葉を機械に登録すると、頻出し、かつ特徴的な言葉が大きく表示されるようになっている。この分析を通じ、１年生から得た言葉としては「木々」や「彩り」、「羽ばたく」、「そびえたつ」、「踏みしめる」などである。

次に、３ページ目の資料２は他学年や地域の方等への意見募集結果を分析したものである。名詞では「ひなた」や「太陽」が多く、その他にも「未来の扉」や「愛と勇気」、「そよ風」、「穂波」など。また、特徴的ではないが多く含まれた言葉として、「元気」や「夢」、「心」、「友達」など。

動詞では「輝く」、「羽ばたく」、「栄える」などが多かった。中でも、「負ける」という言葉が挙がってきたのは特徴的だと思う。昨今の児童は失敗したり躓きがあっても、立ち上がるようなたくましさから出てきた言葉ではないかと思う。

形容詞では「明るい」「楽しい」が特徴的。個人的に特に感動したのは、感動詞の「ありがとう」である。「太陽」と同じ頻度で出てきており、感謝の心を大切にしてもらうためにも使ってみたいと思っている。

また、３ページ⑤にも記載したように、児童は校歌の中の人物に自分を同化させることで歌いやすくなるため、詞の中の人物もイメージしている。その人物の視点として、「はばたく」という上や未来を見る視点や、「踏みしめる」という下や過去、現在を見る視点をイメージし、土台の堅実さに基づく広がりのあるイメージというのが校歌の総合的なイメージとなる。

３ページ目の（４）には今後の歌詞の方向性について記載している。これまでに得たイメージや希望を総合して、今後校歌のストーリーを構想し、歌詞を制作する。制作にあたり、学校名は必ず入れたいが、その入れ方については作曲を担当する朝日教授と検討をしていきたい。また、３校すべてに歌われている言葉や地名、ふるさとを想起させる言葉は大切に使わせていただきたいと思っている。

そのうえで、１番で歴史や伝統から自分を見つめる子ども、２番で他者と切磋琢磨し、自分と他者を見るイメージ、３番で新しい社会を創造する、自分と社会というイメージ、といった形で、少しずつ広がっていくストーリーを描きたい。これはあくまでも例示であり、これからこのストーリーの部分を練っていく作業を進めて行く。

最後に歌詞の形式について、３番構成にするか、町田第三小学校のような２番＋アウトロの形式にするかは現在検討中である。

朝日教授　次に作曲についてご説明させていただく。

曲は、詞ができて、そこに自然に合うメロディーというものがあるので、現時点では作曲の方針しかお伝えはできないが、一言で言うと子ども中心で考えるというこ

と。一般に普及する音楽では「どう聞かれるか」を主体的に考え、聞いている人がそれを評価するというのが音楽の価値となる。一方で校歌というのは、むしろ子どもたちが歌いながら何を感じるのかが大事になってくるので、子どもや歌い手を主体に考えていく。

その中で、まずは４ページの（１）の音域について。我々が想像する以上に子どもの音域というのは狭い。統計的には小学校１年生が伸び伸び歌えるのは１点ハ（ド）の音から１オクターブ上がった２点二（レ）の音までと言われている。これはすごく重要なことで、歌はいい歌だから歌われるのではなく、歌が充実して、歌っていて楽しいからいい歌になっていくもの。例えば、合唱曲「believe」は曲自体も素晴らしいが、変声中の小学６年生から中学１年生くらいの声域に合っている。そういう風に作られていることで、歌っていて楽しく、歌が充実し、歌が好きになっていく。なので、音域を重要視して、子供たちが伸び伸びと歌える音域にしたいと考えている。

また、「順次進行」というのは、隣り合った音に進んでいくということ。単純だがシンプルな方がいい場合もある。いいメロディーにすることも大切だが、凝りすぎて難しくなると歌いづらくもなるので、歌いやすさを大事にしたい。

次に、（２）の調性について。子どもたちが自分たちで伴奏ができるようにすることも考えて、フラットやシャープが多く弾きづらいといったことのないように、資料に記載した調で作曲をしたいと考えている。

最後に、（３）の旋律について。昭和のころに作られた校歌は、昔話に出てくる歌と同じ、いわゆるヨナ抜き調で作られているが、新しく生まれている校歌はだいぶ様変わりしている。今の子どもたちに合い、将来永続的に歌えることもイメージしながら考えると、「believe」のような合唱曲のイメージで作ろうと思っている。ただ、いわゆる校歌としてのイメージで、ヨナ抜き調のものも１つ作る想定ではある。

これから制作に入り、詞・旋律を作り、最終的には部分二部合唱でハーモニーも楽しめるようなことも構想している。

（２）２０２５年度通学路案について

杉本委員　新たな小学校の通学路については、２０２２年度に実施した新たな学校づくり基本計画検討会の中で、ワークショップや現地調査を経て委員の皆様と協議を重ねるとともに、道路管理者や警察と合同安全点検を実施するなど様々な立場の方からご意見を頂いたうえで、通学路案の作成を進めてきた。

これまでの検討状況と、２０２５年度の学区域を重ね合わせて検討を行い、これまで協議を重ねてきた通学路候補に新たに２路線を追加することとしたので、ご説明差し上げたい。

まず、資料２－４左側地図の①の道路について、こちらは藤の台付近にお住いの児童が本町田小学校へ向かう際の最短ルートとなっている。現在は町田第三小学校の通学路となっており、２０２２年度の通学路安全点検では、こちらの道路について歩道がないとの指摘をいただき、安全対策として出入口付近２か所に「通学路」と

いう黄色い注意看板を設置した。

次に、地図中②の本町田小学校近くの都の計画道路について、こちらは３月２３日に開通するということで発表があった。それに伴い、本町田小学校でも２０２４年度の通学路として指定する予定であり、２０２５年度の通学路案にも追加する。しかし、実際の交通量がどうなるのか、通学路としてふさわしいのかについては継続して検討する必要があると考えている。

これら①、②の路線を追加し、２０２５年度の新たな小学校の通学路案とすることとした。右側の図が通学路案となる。この通学路案に基づき、引き続き安全対策を進めて行く。

（３）歴史の継承について

新たな学校推進課　（資料２－５説明）

（４）第２回荷物らくらく登校の実施について

新たな学校推進課　（資料２－６説明）

委員　ランドセル以外のカバンでの通学を推奨とあるが、Chromebookの破損の可能性があると思うが、その辺りはどのように考えているのか。

新たな学校推進課　Chromebookの破損件数の多さについては課題の１つと捉えている。学校によっては入学時に保護ケースの購入を依頼している学校もあるなかで、まずは、すぐにできることとして、ランドセル・リュックの使用の別に関わらず、取り扱いに係る注意喚起を徹底していきたい。

杉本委員　本町田小学校では保護者に、ケースの購入を依頼した。安いものだと２００～３００円程度で購入できる。

リュックに関しては、先日在校生にもカバンの自由化を案内したが、その際にChromebookの入るポケットのあるものが良いという話をした。そうしたポケットに入れて、保護カバーも付けて、さらに物の扱いの指導を学校でもしていく必要があると考えている。

委員　故障の原因として、ＯＳの破損も多いと聞いたが、そうした耐久性の面も含めて、今後、Chromebook以外の端末に代わることはあるのか。

新たな学校推進課　市教委としては引き続きChromebookを使用する想定でいる。

OS破損の一例として、シャットダウンをせずにそのまま画面を閉じるということを繰り返すと不具合が生じてしまうことがあるということも聞いている。今一度、市教委としても正しい使い方を把握したうえで、児童への周知を行っていきたいと考えている。

委員　現在使用しているソフトでは、できる問題でも繰り返し出題されることもあるが、今回使用するソフトが新しくなるとのことで、そういった部分は変わるのか。

新たな学校推進課　そうした意見は以前から多くいただいていた。そのことも踏まえ、次年度にソフトの更改を実施する。新しいソフトは操作性も上がり、出題の方法についても改善

がされていると聞いている。また、宿題でのChromebookの活用方法としては、調べ学習というのが大きいと思っている。本試行を通して、宿題の出し方の工夫なども考えていきたい。

委員　　クレヨンのような、６年間使わずに家に残ってしまう学用品について、学校で備品とし共有にすることで、ものを大切に使う感覚も生まれるのではないかと思う。そうした取り組みも検討してほしい。

新たな学校推進課　学用品の在り方についても今後検討を進めて行きたいと考えている。他自治体で学用品を備品化している例もあり、市教委としても備品化に適したもの、適さないものも見極めつつ、検討をしていく。また、これも他自治体の例だが、ＰＴＡの取り組みとして学用品のリサイクル・リユース制度を運用している例もあり、現在進めている保護者組織の合流の話とも併せながら、学用品の在り方については考えていきたい。

委員　　Chromebookが故障した場合にも、その児童の学習が遅れることが無いように、予備も含めて学校に備え付けることはできないのか。

また、先の質問にもあった学用品については、置き勉を積極的に実施するのであれば、全ての学用品を備品化していただきたい。

新たな学校推進課　１点目のChromebookの予備について、現時点でも故障した児童に対し、代替機が行きわたっていない状況がある。課題として、今後どのように代替機を適切に確保していくかということも考えていきたい。

２点目の学用品の備品化については、学用品を自身のものとして愛着を持って使用したいという児童もいる。個人での所有を希望する場合にはそれも可能な様にしつつ、学校で用意できるもの、共有できるものについては備品化すると、整理しながら検討を進めて行きたい。すぐにすべての学用品を備品化するというのは難しいので、今回の試行後のアンケート結果などを踏まえて考えていく。

（５）諸連絡

新たな学校推進課　まず、前回推進協議会でご案内した市内小学校施設の視察について、スケジュール調整の結果候補日を複数日ご準備できず、実施時期を延期することとした。日程については改めて会の中でご報告する。

次に、同じく前回推進協議会でご案内した、本町田東小学校でのバスの乗り方教室について、インフルエンザに伴う学級閉鎖により延期とした。現在日程調整を進めている。

最後に、次回推進協議会の日程について、当初３月１５日（金）１８：００としていたが、日程を変更し３月２７日（水）１８：００からに変更する。

会長　　（閉会の挨拶）